

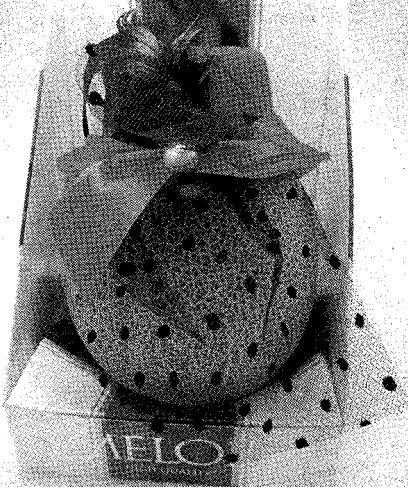
千代川青果

ギフト用メロンに着手

女性が企画し生産し販売

茨城県のレタス、キャベツ、ハクサイなどの産地市場である千代川青果（高野和子社長、茨城県下妻市、2015年度取扱高156億円）では、今年からギフト用のメロンに取組んでいる。女性スタッフが企画し、女性生産者2人に栽培（品種「タカミ」を依頼。糖度16度以上の3L〜4Lのメロンに、ベールと羽根の付いた小型の帽子をかぶせ、商品名を「美しい貴婦人メロン Belle」（すばらしい、素敵）」として販売。今後徐々に賛同する女性生産者を抜げていく予定だ。

同社はグループ会社の「産地市場。両市場とも最諸川青果（茨城県白河市、新式の真空予冷装置を導15年度取扱高52億円）と入し、買参人の転送業者とともに、全国でも有数の」を通じて合計80以上の市



場に出荷している。

そして近年は、旧来の産地市場から活動の幅を拡げている。高野社長の長女で野菜ソムリエ（中級）の石井真弓さんを中心とした食育活動や、地域住民に市場を開放する市場祭りも行う。その中で、今回のコンセプトは「企画から生産、販売まで」

外径約135mm、内径85mmの赤い帽子に黒いベールと羽根で「貴婦人」を演出

で女性ならではの視点と感性を活かしたこだわりのメロン」。産地市場にも女性が主役の部門を構築しようというものだ。

しかし成功させるには、高品質を担保することが必須。まず品種は定評のあるタカミに統一したうえ、同地区で最もおいしいくなる6月に限定し、糖度16度以上を保証するためサンプル検査を強化。今年は1人1日30個（計60個）が限度だという。

また商品化では、「タカミはツルを切り落として出荷するため、ギフトとしてはアールスメロンに比べてどうしても頭が寂しいので、何とかしたかった」という高野社長の意見から、ベール付きの帽



「Belle」は関係者全員が女性。右から石井さん、高野社長、2人の生産者ら

子をかぶせることが発案された。たまたまメロン、またこの帽子はギフト

としての高級感を打ち出すだけでなく、家庭で別のメロンにかぶせ、適熟になるまでの間、楽しむこともできる。高野社長は「メロンを日常的に楽しんでもらえるようになれば」という。

今年6月2日から同25日までの販売で、地元果物店のほか、札幌、京都などの市場にも出荷した。来年は女性生産者を5〜6人に増やし、出荷量を拡大したい意向である。